

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会

「第15回保育園・学校部会」 会議録

日時 令和元年6月26日 午後5時00分

場所 地域交流センター 第3研修室

出席委員 市川祥介(麻績村教育委員) 小山正文(麻績村教育委員)
宮川裕満(学校組合教育委員) 中原 敏(筑北中学校長)
赤羽利樹(筑北中学校教頭) 峰田由紀子(筑北中学校教務主任)
福田弘彦(麻績小学校長) 高野恵理(麻績小学校教頭)
鳥海 康(麻績小学校教務主任) 塚原明水(学校連携支援員)
臼井孝夫(麻績保育園長) 高野羊子(麻績小学校PTA会長)
藤原宗功(筑北中学校PTA会長)
山本一義(筑北中学校PTA前副会長)
小山芳道(筑北中学校前々PTA会長)
欠席委員 柳澤友則(麻績小学校前PTA会長)
刈間伸一(麻績小学校前々PTA会長)

教育委員会事務局 飯森 力(教育長) 臼井太津男(教育次長)

1. 開会

教育次長：定刻となりました。麻績村の教育方針に関する研究検討委員会第15回保育園・学校部会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは部会長あいさつをお願いいたします。

2. 部会長あいさつ

部会長：皆さんこんばんは。本当にお忙しいところ、特にPTAの皆さんはそうだと思いますがご都合つけてご参集いただきまして本当にありがとうございます。また今日も超ご多忙のところ教育長様にもご臨席いただき感謝でございます。お聞きしますと大事な会合が重なっていらっしゃるようで途中で席を外されるようですがご容赦ください。ただ、それまでの間お気づきの点がありましたら何なりとご指

導いただければと思います。よろしく申し上げます。さて、私立中学になるまであと9カ月となりました。過日、新聞報道で中学が、特に私どもがお世話になっております伏木先生が県の教育委員に任命されることになるであろうということを知りました。先月その伏木先生の中学での研究会に小学校では大切な職員会すら延期して、全職員で参加し両校職員が和気あいあいと、しかも真剣に話し合う姿がございました。子どもたちにとって実にありがたいことであり画期的なことでありました。皆様ご承知の通り私どもの一貫教育に向かう立場、今とりあえず色々検討だけしておいて来年4月になったら始めましょう、なんていう考えではなくて今出来ることからどんどん実行していこうという現在進行形の形をとっております。従いましてそういう立場から見ますと、小中学校の職員が同じ課題に向かって同じように研究会に参加して話し合いをしていただくということは、一貫教育の基盤と言いますか規定と言いますかそれを成す非常に大事なこととして高く評価されるものだと私はそう感じております。まさに蛇足であります、今小中ということ盛んに言いましたのでそれでは保育園はどうなの、保小中一貫教育じゃないかというお叱りを頂きそうなので蛇足ですがちょっと申し上げておきたいと思っております。保育園に関しまして付け加えますと、私どもは保小中一貫教育でございますけれども園長先生が良くおっしゃってくださっている通り、保育園は保育施設でありまして幼稚園ではありません。従ってすべて学校と同じようにという訳には参りません。それでも子どもたちは保育園から小中と一貫して通っていくわけがあります。そこで一貫教育の立場から言いますと私どもは保育園、学校もそれぞれの段階で、それぞれの特殊性、それぞれの共通性をお互いによく理解し合って、そして今子どもたちにできることは何か、それを探し、それを実行していく、それに尽きるのではないかと感じておりますが、もし私の考え方が間違っていたらご指摘を頂ければありがたいです。よろしく申し上げます。今日の次第は配られた通りでございますが、特に今年度重点としては6項目について、現状、課題、問題提起等、本当に忌憚のないご意見を交換し合っていただいて深めて頂ければと願っております。できれば机なんか無い方がもっと自由に話が出るかなんかくらいのことを考えているんですが、そこまでしなくてもということですが、こんな感じではありますが、気

持ちの上では本当にお互いに形式ばらずに話し合いを進められたら
なとこんな気持ちでおりますのでよろしくお願いいたします。以上
であいさつに代えさせていただきます。ありがとうございました。

3. 協議事項

教育次長：それでは、協議事項に入りたいと思います。協議につきましては、
部会長に進行をお願いいたします。

(1) 前年度までの部会としての検討と実施事業について（振り返り）

部会長：それでは、前年度までの部会としての検討と実施事業についてとい
うことで事務局から説明をお願いします。

教育次長：それでは、私の方から毎回この会議につきましては前回の振り返り
という形をさせて頂いております。前回につきましては年度の最初
ということもありましたので昨年度の振り返りということも合わせ
てさせて頂いたところでもあります。教頭先生の異動、新PTA会長の
の参加等ありまして自己紹介から始めて前年度の部会として検討し
たことや実施事業についての確認を行ったところでもあります。その
あと今年度の内容についてということが協議されまして、そこで決
まったことが次の通りとなりました。まず部会の回数は年5回程度
とすること、先ほど部会長の方からお話がありましたが分散会につ
いては今年度6つの項目に絞っていくということで、学力向上、国
際理解、ICT教育、ふるさと学習、PTA活動、コミュニティス
クールの6つということにしたわけでございます。この6つの項目
につきましては平成29年の5月に村長からの諮問を受けて答申を
した内容ということに合わせた中の6つの項目に絞っていったもの
でございます。三校園連絡会というものを今まで位置付けてやっ
ておた訳ですけど、今回こちらにつきましては連絡会ということ
ではっきりと位置付けるということではなくて、3つが連携して出来
るものという位置付けに変えていくということで、同じ机で協議を
しあうことが大切とされましたという所でございます。特に中学校
で今年実施しております授業づくり研修会という所への参加等が具

体的に連携して行われるものということで前回ご紹介を頂きまして、5月15日に開催された研修会につきましては信大の伏木先生の指導の下、保小中学校の先生方、また教育委員の方々が参加されたものとなりました。このような形で三校園連絡会につきましては形としてはじゃなくて、実際の内容としての進め方を重視していくという風にされたものでございます。また今後進めていくこと、目指すべきものについてということで保育目標、学校のグランドデザインの説明がありました。保育園につきましては安全に配慮した保育が行われるというのが施設の本質でありまして、小中学校とまったくそのまま横並びに連携という部分は非常に難しいというものになります。現在行っていく保育体制や方針を続けていく中で、連携できることを行っていくという風にされ、まずは小中学校の連携という部分に重きを置いてという形にされました。仕組みではなくて中身を大切にということでまとめられたものでございます。部会自体が閉会になった後、中原校長先生より前任校で一貫教育学校でありました大町市の美麻小中学校について講演をいただいたものでございます。前回の振り返りにつきましては以上です。

部会長: 中原先生の熱い思いを講演会という形でお聞きしたのをしみじみと思い出しているところでございますが、何かご質問ご意見付け足し等ございましたらよろしく願いいたします。よろしいでしょうか。それでは次に移ります。

(2) 今年度重点とする6項目について

～現状・課題・問題提起等～

- ① 学力向上
- ② 国際理解
- ③ ICT教育
- ④ ふるさと学習
- ⑤ PTA活動
- ⑥ コミュニティスクール

その他項目

部会長: 全部ずっと話しておいて後で皆でということではなくて、1つ1つ

切ってやっていきたいと思いますが良いでしょうか。関連したら行ったり来たりしながらお願いをいたします。それでは学力向上お願いいたします。

委員：学力向上の方を担当させていただきます筑北中学校の赤羽と申します。よろしく申し上げます。それではどんなことを考えてというか、どんな風にスタートしてという辺り私の方からお話しさせていただきたいと思います。部会長先生やら次長さんからもお話がありましたが、授業づくり研修というものを先日5月15日に中学校の方で信州大学の伏木先生を講師に招聘しまして開催させていただきました。中学で年3回授業づくり研修をやります。小学校で年1回やって頂く予定ですが、そちらの研修会に小学校中学校お互いに参加し合って勉強し合おう、そんなことを今年1年間やったらどうかということでスタートしております。内容ですけれども、授業づくりの内容ですが、交流型学習生徒たちの学びあいによる学習ということで、今までの講義型の学習からよくアクティブラーニングと呼ばれるんですが、生徒たちがともに話し合ったり議論しあったりしながら学習を深めていく、分かっていく、出来ていくという学習であります。そういう授業づくりの研修を今年1年間通してやっていきたい、今後にもなりますけどそんなことで学力向上に寄与していきたいという取り組みであります。本村の小学校、中学校を通した一貫の取り組みとして生徒たちの学びあいによる学習を麻績村の学力向上の柱としていきたい。小学校でも中学校でも共通して学びあいによる授業づくりをしているぞ、そんなところを目指していければ、研究、研修していければということでスタートしております。

部会長：現に出来ることからやっているところではありますが、目指すところ学びあいによる学習を共通の方向として小中一貫でやっていきたいというところではありますが、小学校の方で付け加え等ありましたら申し上げます。

委員：今お話がありました伏木先生をお招きしてという研究会小学校は1月15日ということでお話をさせて頂いていて、まだこれから授業づくりをということがありますし、中学校さんにもまだ正式にはご案内等出しておりませんし、皆様方にもまだこれからになるかと思いますがそんな中で、授業を見合うということであったり必然性のある学びあいというか子ども同士の関わり合いじゃないかなと思

いますが、小学校はその辺りのところ必ず授業の中に毎時間という形でやっているわけではなくて、あくまで子どもたちの必然性とか必要感に応じた位置付けの中でそういった関わり合いであったり活動を通してとか、一緒に活動する中でということもあるかと思いません。対話っていう所まで行かないかもしれないし学年の発達段階にもよりますので、でもお互いを感じあってとか支えあってとか関わりあってっていう中でということであったり、地域を知る地域の方と関わるということを含めての学習を大事にしたいというところで、その辺りのところを中学校の先生と共有しながら高めあっていけたらなと考えています。

部会長：ちょっと広げて頂きましたが他にご意見ございますか。これを進めている現状、方向をお話しいただきましたが、課題とか問題等感じている点がありましたら遠慮なくお話ししたいと思えます。

委員：課題ですけれども、伏木先生のご指導が学びあいが本当に深い学びあいをご指導いただいているものですから、まだまだそこまで至っていないというところが課題かなと思っています。とりあえず中学の職員1人1人が取り組み始めているのが、1人1公開ということで1人1人が学びあいのテーマを持って1年間研究研修、個人研修をしていくんですけれども1人1人教師が必ず1公開して指導者を1人つけてご指導いただくということを中学では今年1年やってみようかなということで取り組み始めました。小学校さんでも参考にさせていただいたり、参観に来ていただいたりしながら進めて頂ければなと思えます。そんな中で課題がある中でやり始めているといえますか、そんなところで今年1年かけて少しでも高めていければと思っています。別件になりますが、学力向上に関連しまして今年も小学校でも外国語の樹立が叫ばれているところなんですけれども、本校の方では例えば英語科の職員が小学校に行って英語の授業をやるですとか、そんなことも出来ればなと考えています。それも小中一貫の取り組みとしては大事なのかなと思えます。それとまた別件ですが、まだ検討段階ですが小学校さんに中学の方に小学校6年生がお越しいただいて中学校の教室で勉強してもらおうとか、その際に少しでも中学の教科担任が1時間だけでも中学1年のガイダンス的な授業が出来ればなと、校長先生方がそんな風に協力していただいております、そんなことも出来ればと思っています。

部会長: それはありがたいですね。着々ですね。今の色々な試み、こんな試みもしたいよというようなところで他に何かご意見等ございますか。

委員: 昨年度の話伺うと、英語の先生に来ていただいたりということがあったそうで、今の小学校から中学校のローカーリーでっていうことなどを含めて、やって頂く事ばかりで申し訳ないなっていう思いは非常にするんですけれども、やはり貴重な機会ですので距離があって行き来の時間も含めて無理のないような形で先生に来ていただくとかっていうことは本当にありがたいと思いますので、ぜひ具体的に少し進められればいいかなと思っています。

部会長: もう少しストレートにおっしゃって頂いて構いませんけど、距離があるから無理なくと遠慮した言い方ではなくて、距離があるので教育委員会の方で車の心配かなんかできないかとか、その辺りまで思っていることがあったら遠慮なくおっしゃってください。そのくらいの雰囲気でするので。それはきっと教育委員会でも一所懸命考えたり、無理な範囲の時は子どもたちに体力作りも兼ねて何とかならないかという場合もあるかと思いますが、両方で詰めて頂ければと思います。こんなようなことで親の立場で今のお話を聞いてどうお感じでしょうか。遠慮なく褒めて頂くもよし、そうは言っても親から見れば自己満足に過ぎないかということもあれば遠慮なくどうぞ。

委員: うちの子も個人的に英語の授業が始まって、嫌いなはずなのが結構口ずさんで英語が出ているところがありまして、とてもありがたいなと思います。特に連携をとという話があると本当に心強いです。

部会長: 他にございますか。

委員: 去年もやって頂いて好評だったので続けて頂いて、小学生がこっちに来て中学生がそっちでやっているのが大分好評なので回数を増やせるような状況を作れるなら、色々な場面でちょっとしたことでもできればいいかなと思います。前回ちょっと余計なことを言ってしまったんですが、授業は無いですけど中学生が小学校に行って何か出来ないかなというのも、年上の状態で何か教えるとか何か出来ればなと思います。小学生が来て先生が行ってだけじゃなく中学生も行って何か出来ないかなという勝手な思いがあります。

部会長: 大変ありがたいご指摘です。多少はそういうこともあることはあるんですよ。中学生が実際にこうだという姿がまだ一部ですが。中

学校の方から説明をお願いします。

委員：学力とちょっと違うかもしれませんが、生徒会活動で図書委員が小学校に行かせていただいて本の読み聞かせ、本の紹介という体験をさせてもらっていますが、そんな文化的な活動とか生徒主体で行っている生徒会活動とかの交流も結構楽しめるんじゃないかなと思います。そこでギャップが無くなるといいのかなと思うので、そういう機会があれば広げていけるといいかなと思います。

部長：ありがとうございます。ぜひ今の輪を広げて頂くという方向でお願いします。校長先生の方から何かあればお願いいたします。

委員：あいさつ運動でも行かせていただいています。今年小学校にお願いさせていただきます職場体験学習を小学校で1人お世話になります。先生の仕事を体験させていただきます。お世話になります。よろしくをお願いいたします。

部長：中学生がそのまま一緒に先輩としてという発想を親の方から出して頂いているという所に今回非常に大きな意味があるように思います。そもそも一貫教育の大きな狙いの一つに中一ギャップを無くすというようなこともありますので、今のようないことが非常に大事な点になってくるなということ、それから少人数のデメリットを無くすというのも1つの課題でありますのでそれも今の発想でいけばかなりデメリットが無くなるということで非常に大事な点をご指摘いただきました。ありがとうございました。他にございますか。

委員：今の話に付け加えになるかもしれませんが、交流というか小学校と中学校のやり取りはここ2、3年で非常に増えてきたんじゃないかなと思います。あいさつ運動で中学校から来ていただいているものとか図書委員のこともありますけれども、同じように児童会の方の関係と生徒会で一緒に取り組もうということで昨年度でいくと中学校の方からペットボトルのキャップを集めてくださいということで依頼が来て、小学校の方で集めて中学校の先生に持って行ってもらうようなことがありました。小学校も結構たくさん集まったので感謝状を渡したいですということになって、最初はただ感謝状を持ってきたんですけどやっぱり皆さんの前で大々的にやってもらうとありがたいという話をして、文化祭の時だったかと思いますが児童会長が前に出ていってと分かるような形にしてやってもらったということがあります。まだ児童会と生徒会との色んな中学校から願

いされたのを受けて小学校からお願いしたいこともあったんですがまだ上手くいってなくて、小学校で今年もやっているんですが古切手を集めていてその古切手は動物愛護協会の送るとお金になるということです。今の5年生が小さい時から動物を、命を大切にするという取り組みをやっていてそれに合わせる形で去年調べて切手を集めるという活動をやったんです。結構集まっているんですが協会に送ろうとするときのお金の出所がちょっと分からなくて今いっぱい溜まっています。本当は段ボールに入っているのもそのまま送ればいいんですけど、そういう風に送るとお金や領収とかの関係でよく分からなくなっちゃって実は困ってまだいっぱい置いてるという状況で、またいい案をお願いできればありがたいと思います。それをはっきりどんなに集めてもすぐ送れるよということになると小学校の方でもたくさん集めて、中学の方にもよかったらお願いしますという風をお願いできるのかなと思っているんですが、今は集めても集まっていく一方なのでどうしようかという所もあるので送る算段が上手くつくとうれしいと思います。

部会長: そういった活動も送られているということで今のような悩みは即刻校長先生や教頭先生に相談して教育委員会と相談していただいて解決していくと、送る算段等についてはきっと解決できると思いますのでやっていってください。他にございますか。少し失礼な言い方ではありますが、学力向上でありますので深い意味で考えていくと対話的な学習はこれからの要求される学力というものをあれなんです、低レベルな質問ですがいわゆる従来考えられている学力というものが、そういう小中一貫の中で向上していくかどうか今の村の人たちの意識の中に進路指導の結果等がかなり学力向上との関わりで捉えられる傾向が麻績に限ったことではないですがあります。基礎的な学力というものは時代が変わろうとも変わらない面がありますよね。そういったような点が今のような形で進んでいくとかなり学力的にも向上していくのか、あるいは5月の一斉学力検査等も小中一貫教育の流れの中で非常に学力向上がこういう動きをやっていたので学力的にも向上しているというような姿が見えるとか、そのような点はどうでしょうか。

委員: 対話型の学びあい、学びあいの学習で育てていきたいところの大きな力が活用力かなと思います。活用力が今の子どもたちの課題であ

り、これからの子どもたちに付けていきたい力という言われ方をされていまして、そこを高めていくことがこれからの社会に求められる力なのかなと思います。高校入試も今の中学1年生の子どもたちの高校入試から変わってきてまして、配点の仕方が高校によって変わってきて活用力を重視した、活用力の高い子どもを取りたいとかそういう風に変わってきますので今までの知識メインの高校入試から変わってくるという所がありますので、うちの小中学校で取り組んでいる取り組みはそこに向けた先進的な取り組みとも言えるかなという所が一つあります。検証というところですが、全国学力テストの結果がそろそろ出てくるといいますのでそれも小学校さんと中学校で共有をして、恐らくなんですけど劣っているところは似たようなところが課題であったり、高いところは似たようなところが麻績の子どもたち高いねというような結果になるんじゃないかなと思っています。そこも共有してお互いここを伸ばそうとか、ここを更に高めようというところも出てくるといいますので、そこをやっていく必要があるかと思っています。それと去年のものに比べて活力度こまで高まっているかなというところも見えるでしょうし、来年になってしまいますが1年後に活力度うかなというところが見えてくるかなと思っています。

部会長：非常に心強いご回答を頂いて力強く感じましたが校長先生の方から追加があればお願いします。

委員：教頭先生が言ってくださった通りなんですけれども、これからの学力が評価として地域の皆さんがどういう高校に進んだからどうという評価で決められてしまうとすれば期待に添えないかもしれませんけれども、明らかにこれからの社会がAIやロボットなど大きく変わってという中で自分らしい生き方をしていくように子ども達に力を付けていくには、きちんと自分で考えてこれが自分の幸せなんだということを自分が考えて生きていけるようなという風に力を付けたいというのが長野県でも本校でも考えているところなんですけれども、そういう意味では対話型で自分の考えをしっかりと持って友達と対話をするという学習のやり方は大事じゃないかなと思います。今の1年生から高校入試の在り方も変わります。高校もこれをやりたいって思って入ってくる、勉強して何点取れたからこの高校へ行くという考えではなくて進学校であっても理系とか文系ぐらいは自分で意

識して入っていくような入試の在り方によって変わっていきますので、そういうものに対応していくためにも日頃の学習からただ知識を蓄えていくという学習ではなくて、それを使って自分で考えたり自分の思いをきちんと相手に伝えたりというような対話型の学習を身に付けていくことが大事、結果的にはそういう評価にも耐えうるものになるかと思えます。ただ母集団が今少なくなってきていますので、去年に比べてどうかという比べ方じゃなくて、学力調査の6年生の時と3年生の時と比べてみるとかそういうやり方はどれだけ伸びたかということは分かると思えますけど、一概にその学年が今年どうだったかということを経験の進学先で評価していくというのは無理があるんじゃないかと思えます。

部会長：保護者の方々も非常に納得した顔で聞いてくださるのですがよろしいでしょうか。将来の高校入試も変わってくる。私は全国学力調査の問題もいつも少しやってみているんですが、あんまり変わらないので国レベルで少し検討してほしいと思っています。県の高校入試は少しずつ確かに変わってきています。これはご指摘の通り大きく変わると思えますからそれに対応して、あわててその時にやっても間に合わないですが、今からそういう方向でやって頂くということが子どもの幸せに繋がっていくと思えます。比較というような点では今校長先生がおっしゃられた通りだと思いますので、この子がどうなのだという関係で小規模校の良さを生かした評価をしていただければなと感じております。学力向上はこの辺でよろしいでしょうか。それでは国際理解お願いいたします。

委員：お願いします。昨年度も小中の連携というような形で中学の先生に小学校の方に来ていただきながら進めていくというようなこともありながら国際理解の部分で扱ってきたかと思えます。英語学習の充実というところの延長線上で国際理解となってくるのかなと私は今思っております。先ほどお話があったように中学校の先生にお願いするところが多い訳ですけど、5、6年生に中学の英語はこんな感じですかということをやってもらおうと子どもたちにとってもありがたいと思えます。小学校の方から代わりに出前授業をしますということは現状では難しいですが、もしやっていただければ今年も同じようにお願いをしていければいいかなと思っております。昨年度たしか留学生をゲストティーチャーみたいな感じで招いてという時も

あって、そのような時に小学校の方でも一緒にどうですかということがあったんですが、日程が合わなかったなのでその辺りが課題かなと思っています。そういう外の方に触れられる機会がたくさん取れるようであれば更にこの国際理解という部分は充実するかなと思いますので話を進めていければと思います。今年はメンバーも変わったのでそういう中で連絡を取り合いながらやっていきたいと思いません。

部会長:ありがとうございます。関連して小中だけで恐縮ですが、中学の方で付け加えをお願いいたします。

委員:海学も昨年のような形で進めさせていただいていますけれども、先日は今回の留学生ということで信州大学に来ている留学生に来ていただいて国際ということで授業をやっていただいたんですが、ベルギーとタイの留学生がいてその国の紹介を英語でしていただきました。今1年生と2年生は15人ほどのクラスですが、それを更に2つに分けて7、8人のクラスにしてベルギーの子と対話する授業、タイの子と対話をする授業をして授業も半分にしてベルギーとタイと交代してというような形で、非常に国際理解という部分では有意義だったなと思います。またそういうことも小学校と日程が合えばやっていけるといいのかなと思います。また昨年の暮れから進めさせていただいた、ハンガリーに麻績の子で留学しているということで、その伝手で交流をさせて頂いて今ちょうどお手紙を頂いて返事を書いている所なんです、その留学生がこれで日本へ戻ってくるという話なのでこれから先留学生がいませんがそういう関係が続いて行けばいいなという状況です。

部会長:これも画期的なことを進めて頂いておりますが、タイは文化的には非常に素晴らしい文化を持っているからありがたいです。今の国際理解については何かご意見ございますか。よろしいでしょうか。海外に手紙を書くというのは非常にいい勉強になりますし思い出にもなります。私も高校時代にやったことがありますので、より今ので昔のことを新鮮に思い出しました。確かに力が付くと思います。大いに進めて頂ければと思います。

委員:価値観が変わってくると思うので是非やって頂ければいいなと思います。欲を言えば麻績の子たちも向こうに留学してほしいなと思いますが、無理をせず着々と進めて頂ければと思います。

部会長：今の留学というようなことも前回か前々回に話題になりましたが、じゃあすぐという訳にいかないから大きな課題として、教育長さんをはじめ教育委員会の皆さんも課題として含んでいてくださいますので、お互いにそこら辺は共通の課題として持ちながら今できること、今のような話をどんどんしていただければと思います。

委員：今こうやって交流しているという話をもっともっと村の人たちにアピールをしてもらえたら、皆さん関心を持って例えば受ける面でもいろいろ視野が変わってくると思います。子ども達から国際交流を発信していくというような形で、今やっている取り組みをアピールしてもらえれば村民の皆さんも関心を持って子どもたちを国際交流とかの面でも育んでもらえるかなと思いました。

委員：一応学校だよりの6月号で国際交流をしましたということは1つの記事として載っている状態でございます。また発信を頑張らせていきたいと思います。

部会長：毎回館報には載せて頂いていますし、中学の学校通信や小学校の校長通信等で発信はしているんですが知らなかったというような反応が結構ありますので、そこを更に広げるにはどうするかということもまた課題としてご意見があればお聞かせください。

委員：文通について付け加えなんですけど、私も様子を見させていただいてとても良いなと思ったのが、あちらから来るといろいろ質問されて日本ではどんな歌が流行っているのかそういうことをまた伝えなくてはいけなくて、ある子は剣道を教えなくちゃいけないということでもまずは剣道を知らなくちゃいけないと剣道部の子に聞いてみて、今度はそれをどうやって英語にしなきゃいけないとか自分で調べなきゃいけないというとてもいい機会を頂いたなと思います。

部会長：ありがとうございます。具体的にもお話を頂きました。中学生向けの参考書にも英文手紙の書き方があると思います。ただその中には剣道は出てきませんから、きっと苦労してその子は勉強したと思います。それでは続いて ICT 教育をお願いします。

教育次長：昨年度予算上で ICT 支援員ということで人件費の予算が認められたこともありまして、外部から ICT 支援の位置付けということで来ていただきました。去年は学校の情報担当の先生と机を同じにしてどんなことが今の中で課題ですかというところから始まって、学校の大きいことから小さいことまで、特に小さいことという部分が多か

ったですけれども学校として今こういうことができますかという形を具体的に出していただいて、来ていただいた支援員の方に解決していただいたということがありまして、そういう面を進めていきました。その項目に従って ICT 支援員の方が実際に学校に出向いて問題解決なりタブレット端末を使ってこういうことが出来るというデモをしていただいたりということをやった訳ですが、それは学校の行いたいことの第一歩ということで ICT の部分については小中が連携して一貫性のある取り組みをしたかということになればまだまだ手が付き始めた状態であるというのが否めないかなと思っています。支援員のこちらの使い方が上手いかわなくてというところもありますが、情報 ICT につきましては得手不得手がある先生という部分がありますし仕方がないことだとは思いますが、比較的使いやすいタブレット端末という部分を中心にしていきたいということは考えています。昨年も中学の方に 6 台購入していますし、小学校の方も 5、6 台すでに iPad 端末があります。今年度も小中学校の方にタブレット端末を購入できる予算付けを行っておりまして基本は今 iPad の購入ということで予算は見ているんですが、特に iPad については特別支援の部分に非常に有効であるということが実際に言われておりまして、特別支援の関係で使われている学校も非常に多いということもありますのでそのような所から、また簡単な調べもの学習もいちいちパソコンを開いてということよりもタブレット端末の方がより具体的に出来るかなと考えています。両方の学校ともに Wi-Fi 環境はすでに完備されていますのでそういう部分では特に問題は無いのかなと思います。課題という面では今年になって小中学校の情報担当の先生と一緒に協定の部分をまだ出来ていないんですが、その協定を多く設定し小中学校においてどんな情報教育がなされる必要があるのか、今不足しているものは何なのかということが具体的な議論が必要になってくるかと思っています。その中で次回の情報教室の整備が今入っているものが平成 26 年に入っているはずなので、5、6 年になってきますので実際にどういう方向性をといることは決めていかなければと思っております。ただその中で今の思いの中ではタブレット端末を中心として 1 人 1 台のタブレットをといる形での環境整備というのが他のところでも多くなっているのかなと思います。小学校も中学校も実際にはノートパソコンがタブ

レットになる端末になっていますけれども、それは Windows 端末でありますのでそれが本当に良いのかどうかということも今後の中でのということになってくると思います。1人1台タブレットが渡ることによって先生と1対1ということではなくて、児童生徒の考え方を教室の中で共有できる環境が生まれて来るかなという風に考えていますのでその中が1つの課題かなと思います。問題提起ということになりますけれども、どうしても情報教育を検討する上での専門性という部分が出てくるので、自分自身そんなに ICT については勉強不足で弱いところもありますので、そこを補完するための ICT 支援員だとか可能な限りの業者のサポートの部分だとかそういう取り組みの基礎を作っていくことが大事かなと思っています。今度変わる新学習要領において基本的には今 Windows が基本になっているかと思いますが、iPad 端末がどこまで普及してきてという部分もありますのでどういう形のものを取っていったら良いかという部分も考えています。費用とすれば iPad 端末を揃えていった方が費用的には安くなると思いますが、それに対応するものが Windows であればそれは使えなくなってくるのでその辺りも加味した中での具体的な進め方が必要かなというところを考えております。それから29年度に派遣を受けました文科省の委託事業であります ICT 活用教育アドバイザー派遣事業というものがあって、29年度に無料で受けて実際に来ていただいているいろいろ教えて頂きました。今度実際にある程度のところが決まってきた段階で夏ぐらいに募集が始まると思いますが、その中に手を挙げてみようかと思っています。

部会長：ありがとうございました。ただいまの報告等についてご意見を求めます。

教育次長：今予算化してある部分につきましては遅くとも夏までには購入するような手配をしていきたいと思っています。

部会長：私の昔一緒に仕事をしていた仲間が現在都市部の校長をやっている人がいるんですが、ボヤキを聞くとこういう世の中で端末を使って授業を進めるべきだしやりたいと思っているけれど、その都市全体で足並みが揃わないきゃあなたの学校だけという訳にはいかないという、なかなか思うように進まないという話を聞きます。そういう点で私は麻績の小中学校はやりやすいと思いますがどうでしょうか。子ども1人1人に行き渡るとい話を聞いてありがたいなと思

いました。そんな中でご意見があったらお願いします。

委員：職員の方でも教室で使えるように画面を移せるようにということで取り組んでいます。今後のことを考えると子どもに行き渡っても職員がまず出来ないということで研修に行こうという意欲のある職員はいっぱいいるんですが、教育センターとか行くにしても結構距離があり旅費だと高速代が出ないとかという面でその距離が難しいということがありますので、身近で研修出来る機会が増えてくると先生方もどんどん研修できるのかなと思います。

部長：そういうことも大事だと思います。それで小中一緒に出られればいいと思います伏木先生にお願いするのと同じように ICT の専門家を呼んで交流センターでできればということですね。教育長さんも聞いてらっしゃるのでまたご検討いただければありがたいです。保護者の皆さんの中にもベテランの方が何人かいらっしゃるんじゃないでしょうか。

委員：ぜひ先生方が安心して研修に出られるように費用の面とかお願いしたいと思います。子どもたちの方が機械のことにに関しては出来ることが多いと思います。PTA の方でも学校のパソコンのソフトは子どもたちがやりにくいという話もちらっと聞いたことがありますし、最新のものを入れてほしいというようなちょっと我がままかもしれませんがそういう話も聞いています。子どもたちは吸収すると早いですし逆について行けないほどの能力を持っていますのでぜひ先生方には研修に没頭できるように手配していただければと思います。

部長：非常に心強い、しかし厳しい要望が出ましたので教育委員会の方でもご検討ください。ICT の方はこの辺でよろしいでしょうか。場合によっては今の小学生、中学生の声を聞きながらという視点もお話いただきました。ありがとうございます。それではふるさと学習の方からお願いいたします。

委員：お願いします。ふるさと学習という枠が大きくてどのような所を話したらいいのか難しいので方向が違っていたら教えて頂きたいのですが、ふるさと教育というものを地域の歴史的なことを知って自分にとってのふるさとというものがどういうものか知るとか、これからの社会にふるさとをどのように位置付けていくことが出来るか考えるような機会になればいいなと思っています。それから地域の人に教えていただくことが自分たちにとって為になるだけではなくて、

地域のお年寄りの生きがいに繋がったりということが大事かなと思っています。小学校を今振り返ってみたときに、結構地域の方が手厚いのでいろいろな所でお手伝いして頂いていてふるさと学習と繋がっている取り組みが出来ている部分もあります。例えば麻績図書館は村の図書館と共有なのでこの間も、お蚕さんの特集をしていただいて麻績村の歴史的な所を学ばせて頂きました。あと、おみっ子応援団というところから昔遊びをお年寄りの方にいろいろ教わるという取り組みも継続的に行っています。今年は聖太鼓といって明治町でやっている太鼓を3年生が教わりに行って明後日音楽会なんです。そこで披露することにもなっています。クラブ活動でもお世話になっていて、冒険クラブは麻績かるたとか、善光寺街道麻績宿すぐろくを参考にしながら実際にそこに行って見てみようということでもやられております。また5年生は毎年お米作りをしているのでそこで来ていただいて教えていただいていますし、今年はやるか分からないんですが以前には紙漉きをして和紙を作ったりということもあったそうです。そのようなことを考えると、教科学習と結びつけて教育課程を踏まえた上でそれをどういう風に進めていくかということ少し整理させて、例えば1年生は昔遊びで教わるとかその前段階で保育園では自由にお散歩で歩いた時にお年寄りと触れあったり、地域の史跡みたいなものに触れたりともっと自由な感じで下地を作って頂いて、例えば3年生が和太鼓を毎年やるとか、4年生になるとクラブ活動で観月苑さんでお茶を点てるお茶クラブというのがあって教わっているんですが、例えば2分の1成人式の時にお茶を上手に点ててお家に人にどうぞってやるとか、5年生は田植えをやるので6年生は植物から作って紙漉きまでやって保育園の年長さんの卒業証書を一緒に作ってあげるとか、そうじゃなくても保育園の年長さんと小6と中3の人はみんな紙漉きをやってみるとか、そんな風な形にしてポイントポイントを押さえて教科と関連付けた形で一つ通してみようかなという思いもしています。

部会長：具体的な実践例がたくさんあるからそれらを整理してやっていこうという意気込みを感じました。それを受けて中学校の方はどうですか。

委員：中学校の方は最後の出口として中学3年生にはふるさとのことを知った上でふるさとに何か役に立てるような活動なり提案なり共同活

動なりを中学3年生ではさせたいなという願いを持っています。それは先ほどから言っている自分で考えて自分で行動していくという大事な力の最後本当に自分でやっていけるか試す場にもなってくると思います。昨年まで中学3年生は歴史の善光寺街道だったり麻績宿だったり篠ノ井線だったりというのを調べてカレンダーにまとめてということで大変地域の方にも褒めて頂いてやりがいのある活動ではあったんですが、そこで終わってしまうともったいないなという気持ちもあって今年はそういうふるさとのことを知った上で、3年生で地域のために何が出来るかという活動をこれをやりなさいと決めるのではなくて、子どもたちが考えてやっていくという風にしたくなと考えています。中学3年がそういう1年間にするとすれば1年2年で3年でそういう風になるために地域のこととかもまず知ることが出来ないという課題を持って地域に貢献していくということでは出来ないと思いますので、そういう意味で中学1年生2年生で歴史のことであつたり文化財のことであつたり勉強したり、今まで職場体験学習を2年生が行っていたのですがそれを1年生と2年生で行うようにしました。1年生は福祉分野で職場体験をさせて、2年生は福祉を除いた工場であつたり商店であつたり事業所であつたり官公庁であつたり、地域の中のそういったものの中で体験をさせていただいてと思っています。それも当然一番はキャリア教育が目的ではあるんですが職業を知るという目的ではあるんですが、もうひとつはふるさとを知るという機会にして歴史や文化財を知ることと今の麻績村を知るということの両方を1年生と2年生でやりながら最後3年生でどんなことを村について課題に感じて自分たちは出来るかというような自分でテーマを持って活動するというように今年カリキュラムを変えました。3年生は変えたということになると今までやっていなくてそういう活動になるので少し忙しくて、今年から1年生や2年生が勉強する歴史のことや文化財のことも3年生で勉強しながら地域に貢献するような活動も考えていくということで過渡期の3年生ということで少し忙しい日程になるかとは思いますが、段々にそれが1、2、3と積み上げて3年生がしっかりとという形にはなっていくと思います。そういう意味でまずは1年生から3年生を繋がるようにしています。その1年生2年生のふるさとを知るという部分について更に小学校と連携させていただいて、ここまで

は小学校で勉強している体験しているということを踏まえながら1年生2年生の文化財であったり職場であったりということをしかりカリキュラムを作っていかなきゃいけないなと思いました。今高野先生おっしゃったように各学年でこういうことをやると段々と決まってくると、それを踏まえて中学校も1年ではこういうことを勉強する、2年生ではこういうことを体験するということが固まってくるかなと思います。その学年その学年で任されてやる部分と、これだけは3年生でやる、5年生でやるという部分を情報交換させていただきながら中学校の方のカリキュラムも作っていきなりたいなと思っています。

部会長: 中学の校長先生は出口を非常に明確にキチッと方向付けてくださっているので、皆さんそこへ向けて進んでいくという点で非常にありがたいところではありますが、この辺りは保育園も非常に絡んでくるんじゃないかと思いますがどうでしょうか。

委員: 今出口という話のございでしたがけれども保育園はさしずめ入口ということになるかなというところですが、今の紙漉きについてだと地域ではないんですけども協力隊の皆さんの協力を得て現在やっております。今年も7月11日と12日に子どもたち年長がやる予定でして、これは卒園証書の紙漉きをやっております。今の小学4年生くらいからは全員やっているのではないかというところなんです。ですのでこれがまた体系的になっていけばいいのかなという形ですし、地域の資源ということですが散歩コースの中にも麻績神社ですとか観月苑、神明宮、法善寺等ありましてそこで遊ばせて頂いたりしていますので、その時に小さいながらも原体験としてこういうものがあつたとか、お墓があつたとか、そういうようなことも話の中で出ていますのでそんなところも繋げていければいいんじゃないかという風に感じて聞いておりました。

部会長: ありがとうございます。保護者、教委の方からは何かご意見ございますか。私の方から事務局の方で用意いただきました裏表の印刷物を後でゆっくり見ておいてください。特に中学の先生方は噛み砕いていただいて、出来ればこれこそ地域を学ぶ地域の歴史を学ぶというのは何も文化財を観光目的のために学ぶのではなくて、このような民族というようなこともずいぶん入ってきます。これから2年間かけて麻績の地域を全部回る予定です。そこに残っている味噌小

屋だとか、瓦を焼いた所、その瓦をここで使っている、そうすると瓦と関連してそれぞれの所に鬼瓦で水って出ているその水の意味は何なのか、そうするとこの地域の人たちが火事に対してどういう対応をしてきたかという辺りまで見えてきます。そういった民族的なことも含めて各地域を回ります。特に小学生や中学生に出て頂きたいので必ず土曜日か日曜日にやりますので、特に中学の先生方におすすめていただくとありがたいと思います。中心になる宮下健司先生はご承知の方多いと思いますが、麻績の出身で県の歴史館の教育職の中のトップを務めておりましたし、県下でも歴史教育については非常にお力のある方で聖博物館の名誉館長もしてくださっている方です。ですから安心して、しかも麻績を愛する気持ちからいろいろやってくれますので大いに参考にさせていただければと思います。小学校の先生方にとっても申し訳ないのが、土曜日か日曜日それも宮下健司先生の空いている日を取るものですからおみっ子元気くらぶと重なる日が多いです。今回の6月は重なっています。従って小学生には申し訳ない部分がありますがどちらかを選んでいただいて参加し、今の中学校長先生がおっしゃる出口に向かって非常に参考になるかと思しますのでご紹介をさせていただきました。教育委員会、公民館も絡みますので公的な立場で宣伝をさせていただきました。それでは先に進ませていただいてPTA活動をお願いします。

委員：代表して小学校のPTAの方から報告したいと思います。小学校のPTAでは昨年早期式事業改革を実施しておりまして、なぜかという子どもたち会員が少人数になってきたことで役員決めのPTAになり兼ねないという思いがありましたので、思い切って昨年度PTAについて皆さんにお聞きして組織を大幅に変えております。PTAで評議員会という組織がありますが、その評議員を半分に減らす12人から6人に減らしました。部会活動の教養文庫部、施設生活指導部の2つの部会だったのを半分にして施設生活指導部のみに思い切っておりまして。本年度それをスタートさせて先日評議員会実施しているんですけども、なかなか人数を少なくするということは大変なことで皆さん本当に困惑されているかなというのが実情でしたが、過去の経験がありますのでそういう資料とかを基に皆さん進めているところです。学校の環境整備ですとかそういう所を重点に皆さん活動しているんですけども、これまでやってきた一番メイ

ンの麻績オリジナルの図書館についての活動が疎かになるのではないかとこのころでまだ考えているところではありますが、クラスごとで保護者による読み聞かせとかボランティア活動として図書館のイベントに協力するというところはまだ消えていないかなというところで、役員の方で呼びかけて進めているところです。三役ですが現在は二役に変更しております。副会長を1人減らして大丈夫じゃないかという見込みで続けています。今スタートしている段階ですのでここが大変あれがいけないという課題を挙げているところです。何ととっても私事で申し訳ありませんが年間60回くらいの会議ですとか研修で出ることがありますので、そこのところをなるべく少なくしていかないと役員になるというのも大変でこの後続いていかないかなということも皆さんにもそのところは知っておいて頂きたいと思います。課題はかなりこれから見ていかないと拾えてこないのでも本年度末の方でまとめて来年に生かしていきたいというところがございます。図書館の方でも皆さん本当にクラスで読み聞かせというのを分かっておりましてPTAで言わなくてもクラスで今年担当番決めてこうしようという話がされています。課題としてはこれから入ってくる学年の人たちにそれが定着できるかなというところなので進めていきたいと思います。そういう風に改革をした時点でみなさんから物足りなさとかそういう不満というのも出てきています。これは続けた方がいい、会員はもう少しの方がいいという話もありますのでそこを上手く今年1年考えていければと思います。中学のPTAの方と協力体制は非常に必要かなと今実感していますので、これから中学の皆さんとお話出来るようにしていければなと思っております。今年麻績小学校が北部PTAというものがありまして、ここ三村のPTAの連合会がありますが当番校となっております。やっていることは年2回の総会と講演会になっておりますけれども、1回目の総会は終わりました1月に総会とメインの講演会が待っております。今学校の先生方とも連携をして話をつめている所なんです、今までは講演会をして懇親会という流れだったので少し考えましてなるべくここの谷の皆さんと話出来るように、懇談会兼ねた集まりになればと考えております。

部会長: ありがとうございます。会長さん方を忙しくしているのもこの会もある性だと感じておりますが、ここは大事な所ですのでご容赦い

ただいて是非ご協力ください。中学の会長さんのお立場からお願いします。

委員：今お話があったように、いろいろな活動とか交流とか賛成だと私は思います。中学もいろいろ明日も入っていますが青パトなんていうパトロールといった活動で子どもたちが安全に帰れる、今田舎であっても危ない状況というか、何があるか分からないということがありますので保護者の部会を中心としてパトロールしたりとか、GOGO 歩こうとか結構体力が落ちているということで歩こうという呼びかけ等しております。活動としてはそんな感じでやっております。

部会長：ありがとうございます。OB からも是非どうぞ。

委員：PTA 活動においては先ほど高野さんの話にあったように、読み聞かせはもう私たちがやるよと言ってくれる方がいるというように他の活動もなれば一番理想なのかなという気はしますけれども、これだけ変な話、小さい学校なので親御さんたち一丸となって考えていくぐらいの方が私は良いんじゃないかと個人的には思います。

部会長：ご苦勞いただいてきたお立場からですので大いに参考にしてください。他にございますか。学校側からはどうでしょうか。よろしいでしょうか。それでは最後コミュニティスクールお願いします。

委員：コミュニティスクールですが小学校のコミュニティスクールとまだ情報が交換できていないので中学校のコミュニティスクール、チーム筑北について話をしていきたいと思います。地域の方と学校と保護者の方も含めて一体となって子どもたちの育成に協力していこうということですが、先ほどのふるさと学習にも繋がると思いますし地域の方や村の方々の生きがいにも繋がってくれるといいな、また忘れかけていた地域の繋がりも再確認できたりするといいなということで、最終的には子ども達はこの村の未来を担う子ども達ですので、その担い手となる子どもたちを皆さんで育てていけるといいなということで、筑北中学校では5つ部会を設けております。1つは学習支援部ということで塚原明水先生にも来ていただいておりますが放課後学習ということで今日も行ってきましたが、子ども達の学力の保証、向上のためにお力をいただくということで英語、数学、理科を見ていただいております。ただ子どもたちの希望としてはもっと違う教科を見ていただきたいという希望もあるので明水先生は

じめ来ていただいている先生方に新しく来ていただける先生方いないだろうかということで打診をしているところです。2つ目は図書館支援部という会があります。こちらは毎朝「朝読書」を行っておりますが、月1回読み語りの会というものがあまして地域の主に図書館の館長さんを通してですけど、読み聞かせのボランティアとして来ていただいております。こちらの会も定着してきて子どもたちも楽しみしておりますが、昨年比べ力を貸していただける方が5、6名ほど増えたということで中学校に来ていただく機会が出来ているんじゃないかな、また子ども達との触れあいができるんじゃないかなというところで男性の方も来ていただいているのでとてもありがたいなと思っております。3つ目がスポーツ・文化活動支援部という会があります。こちらは主に部活動にスポーツという形また、技能面教えていただいたり職員のいない時間帯を見ていただいたり、引率等々大会等見ていただいている方々です。4つ目は環境支援部です。こちらは学校の環境を整えるということで草刈だとか畑を起してほしいとか、特別支援学級の生徒たちの活動として畑を作って作物を作って還元していこうという活動で来ていただくということがありますが、こちらは臨機応変に来ていただくということなのでしっかりとしたものも年度当初ある訳ではありませんが、願いに応じて連絡を取ると来ていただけるのでありがたいと思います。最後はキャリア教育支援部というのが今年立ち上がりまして、先ほどお話がありましたけれども1、2年合同の職場体験学習ということで1年生は福祉関係施設、2年生の職場体験を麻績村内の職場を知ろうということで職場の受け入れ先を麻績商工会会長の宮尾さんをお願いしまして、宮尾さんからいろいろ職場を紹介していただいております。その職場もいつもお世話になっている職場も多いのですが、改めて今度働くという立場でお邪魔させていただいてこういう仕事だったんだとか、村の中でもこういう職業があったりとかこういう方たちが働いてくださっているということをお勉強するのに大変ありがたい情報というか受け入れ先を頂けることかなと思います。そんなところが新しく始まったところですが、つい先日はマナー講習会ということでキャリア教育には大人の社会に出るとということなので、マナーが必要ということでマナー講習会を商工会の塚原さんに来ていただいて1時間受けました。また社会福祉協議会の

方にも2回ほど来ていただいて、福祉施設に伺う前にはこういう心構えが必要ですよということや守秘義務というものもありますので、そういうことも勉強してこれから実施するということになります。課題なんですけど小学校のチーム筑北のようなコミュニティスクールをもう少し私たちも知らなきゃいけないなと思いますが、こちらで話をしている中で出来たら保小中と同じ地域の方が関わってくださるとそれがまた繋がっていくのかなと思っていて、例えばこの間の伏木先生のお話にもあったんですが地域の小学校の方では児童と生徒たちの見守り隊というものが、民生委員さんがやってくさっていて青パトにも似ている活動なんですけどその方たちが実際に道端に登下校の時間帯に同じ方が立っていてくださると、その子の様子をよく見て毎日の変化とかが分かるんじゃないかというところで、そんなところで保小中一貫ということも考えてコミュニティスクールという形でもあるんですけども地域の方のご協力をいただけたらどうなのかなという話をしていました。また学校側とは違うところで学校はこうしてほしいなというお考えもあるかもしれませんけれども、こちらでお願いしたいなということの情報も話しながら一緒に育てて頂けるとありがたいなと思います。

部会長:ありがとうございます。同一人物という点ではまさにコーディネーターが今年から小中一貫で塚原先生が専門でコーディネーターとしてついてくださっていますので塚原明水先生からご発言がありましたらお願いいたします。

委員:今中学校で計画していることを出来るだけ小学校の方と上手くマッチング出来れば良いかなと努力しております。

部会長:実際にコーディネーターという職に就いて既に2か月ですが何かお考えになっていることがあればお願いします。

委員:まだ2か月なので小学校の先生方、中学校の先生方それぞれ個性的な所を掴めないでいるのもう暫くしたら要望を取りまとめていけたらなと思います。

部会長:ありがとうございます。この問題はもう専門家がついてくれますので塚原先生の方でまとめていただいて次回一歩前進した姿を語っていただくということでこの辺で切りたいと思いますがよろしいでしょうか。その他の項目で何か小中の方で報告いただけることがありましたらよろしくお願いいたします。

委員：まだ計画中的というか出来ればなというところですが、夏休み中のどこか1日か半日を使いまして小中連携会議を持てればいいかなというか持ちたいなという話をしています。内容ですが例えば教科別で集まるとかテーマ別で集まったりですとかそんなことはどうかかなと思っております。それも小学校の職員さんのニーズと中学校の職員のニーズを聞いて作ればなと思っておりますが、例えば教科でいきますと道徳が教科化になって評価をしていかなければいけないのですが、小学校はどのように評価し中学校はどのように評価するということが連携をつなげていくことが大事かなと思えますし、英語の教科会ということでこのテーマにもあります国際理解にも繋がっていくところかなと思えますのでこの村の小中学校の外国語教育はどのように進めていこうかということ連携取っていくことはすごくいいことかなと思えます。あとは総合的な学習の時間の連携会議を持ったとするとこれはふるさと学習に関わってくるんですけども、中学では1、2、3年と取り組んでいて出口としてここを目指しているというところがあってそれを小学校さんとの接続をどのようにしていこうかという辺りも話が出来ればと思えます。テーマ別でいきますと図書館教育というテーマでいきますとビブリオバトルを小中連携してやっているというところがありますので、今年度どんなふうに進めていこうか、何回やっていこうか、何を狙いにしていこうか、どんな力を付けようかというところも話せるかなと思ったり、または学力向上なんですけどそのところで連携会議があってそこで例えば全国学調の結果を持ち出して見合って分析してみてもお互い学び合いの授業を通してこういう力を付けていこうという話が出来れば嬉しいなというところを考えているところです。

部会長：小学校の教頭先生との連絡の中でも話は出ていますか。

委員：はい。もともとは校長先生方で話し合っています。

部会長：去年まではそれに似たようなことがありました。一番最初は三校連絡会といって昔の坂井小と筑北中学のためには学区内の小学校が一緒になって中学と麻績小と坂井小の三校連絡会がありました。それがなくなりましたのでその代わりに今のような会が持てていたんです。でも今年の年間歴に入れるのを忘れてしまったんです。3月の末に校長先生方と話をした時に忘れていて必要になったら考えましょうという程度で話が終わってましたから、今のような教

頭先生から詳しく言っていただけると非常に価値があるような気がします。されど先生方も働き方改革の時代ですから首を絞めることになってもまずいので無理のない範囲で出来るのでしたら是非とっていただいて教育委員会の方から全面的にバックアップしていただくという形でいかがでしょうか。まず無理のない範囲でやっていただいて、もし良かったら保育園の方にも呼びかけていただいて無理のない範囲で出られたら出ていただければと思いますまたこの委員にも呼びかけていただいて無理のない範囲で出られたら出ていただきたいと思います。今の話9教科全部を分科会にするのではなくて重点的にやっていくような感じがして伺っていたのですが、分科会の持ち方も工夫していただいて校長先生、教頭先生あるいは教務の先生方でご検討いただいて、自分たちの首を絞めないこと、必要で有効な分科会でいけるとありがたいと思います。そこに先ほどの機械の研修会が入るとなるとお良いですね。

教 育 長：ちなみに時間はどのくらい必要と考えていますか。

委 員：高野教頭先生ともご相談させていただいている中では例えば1時間半であるとか3時間であるとかそのくらいかなと思っております。

部 会 長：丸一日掛けるのではなくて、例えば9時から始めたら11時半には終わってという感じで延びても12時というところですか。今良いご提案をいただきました。他にございますか。

委 員：私も出来たらいいなというところですが、中原校長先生と全く意見が一致したのは小学生5、6年生が中学校への繋ぎというか行って生活をさせていただく、今はお招きしていただいて授業を経験させていただくという立場にいるんですが、そのまま一定期間生活を中学校で送らせていただくということがまずは担任が行くところから始まるとは思いますが、そこへ中学校の先生方に入ってきてということを経験を例えば1週間とかという期間を無理なく設けることが出来れば、そういうことが出来ればいいねという願いは一致しております。ただそれはここで最初に確認があったようにボトムアップじゃないと私たちがやりなさいという部分はダメだと思うので、担任の先生とか子どもたちの意識付けというかその部分を大事にしていけないといけないかなと思います。やりなさいとか一定期間やるものですよというやり方は2年後3年後はあってもいいのかもしれませんが、今その部分については本当に丁寧にやっていきな

がら今年少しでもその部分は去年より前進する機会になれば無理をしなくてもいいのかなということが一つです。もう一つこれも出来たらいいねということですが、6年生の担任の先生さっきの地域に出て周りの方と触れあうということを経験の中でやったださっている方で、その中で塚原明水先生が学校に足繫く来てくださるので担任が相談して学級の総合のテーマを何にするかという中で担任が今考えていることが保育園との交流です。ただ総合ですので子どもたちの意欲がそっちに向いてこない限りは押しつけではダメだということを知っている方なので押しつけをしないでどうしたらそう流れるんだろうということを考えてくださって、私もそこに出ればと思っているところがあるので保育園長先生にまだ何もお願いしている部分ではないですが、でも子どもたちの意欲がそっちに向いてきたときに初めてそれは本物なると思うと、私たちのところで醸成と言いますが子ども達の言葉を拾い上げてそこに意欲を繋げて向けていくという課程を大事にしないとやらされる活動になってしまうということもあるので、何でもかんでも計画の中に位置づけるということに関しては良いのか迷っていますし、6年生の活動についてもこちらからやりなさいではなくて担任の先生がそういう気持ちがあって動いてくれるのであれば大事にしていきなさいというスタンスでありたいと思っています。そういったことも含めてこれからまだまだというところを見通してそこへ時間を掛けて向けていく、何でもかんでも今のうちに、この段階でやらなきゃということも大事だし求められているような気がします、一番は職員とか子どもの意識じゃないかなと思います。そこはこの部会でずっと確認されていたボトムアップでないという話で、そこを私たちここにいる学校職員が上手く職員や子どもたちに働きかけていって、もちろん価値ある活動を地域学習をこういう風に位置付けていくということは私はとても大事だと思いますが、でも特に総合って小学校が考えてやっている部分は今の子ども達の意欲を大事にするという部分がまず子どもありきなもので、そこを見失ってはいけないんじゃないかなと思っていて上手くいったらいいなと今お話しした二点ですが、どちらも子ども達、保護者の方々の意欲それから先生方のやる気に上手く重なり合った時にこそ出来てくる活動じゃないかなと思っています。願ってはいますけれどそれに向けての働きかけは私たちの責

任としてやっていけなくてはいけない部分かなという風に思っていますが、是非ご理解いただいて待っていただくというかその部分を大事にさせていただきたいなと思います。

部会長: ありがとうございます。原点も大事に確認していただきました。私どもで協力できることがあったら言っていただければと思います。良いお話を伺いました。他によろしいでしょうか。それでは(3)に移ります。

(3) 保護者からの意見・要望等について

部会長: 特に何かありましたらお願いします。

委員: PTAの皆さんの中では来年から保小中一貫が始まるということになっています。筑北中に小学校からエスカレーター式に上がるということを皆さん分かっていると思います。他の学校に行く子もいますけれども大体は皆さん筑北中に上がるということを見据えて、小中PTAの合同化を提案します。全部の事業を一般にするという考えだと単純に考えて無理だと思います。事業はそれぞれ今と変わらずに進めていくという思いで、ただ役員に関しては合同にした場合の会長と副会長を決めてそれぞれが役割を持って外部の研修に出ていくというところで、今までは小学校中学校で役員が外部の研修に出ていかななくてはいけなかったのを小中で代表で出ていく、そういうところから合同にして動き出せばいかがかなと考えております。事業を一緒にやっていくことは無理がかなりありますので、同じ親御さん達が9年間関わっていく学校でありますので合同ということで考えていければなと思っています。細かいことに関しては私もいろいろ考えておりますので皆さんにこれからお示ししながら、もしこういうことで検討していければ是非お願いしたいと思います。

部会長: ありがとうございます。前回少し高野会長からお話があったので私も申し上げてしまいました。今すぐここでと言われて何かありますか。お話として受けておいて後程またじっくり考えましょうというような形で良いでしょうか。きっと先輩方もいろいろお話があるかと思いますが、こういう会を通してやっていくと先輩の声も聞けますし、学校の実情も分かりますからまた次回辺り項目の中に入れていただいて次回までに考えも皆さんまとめておいてください。

県下でも小中が一緒になっている PTA はあるかどうか、特に併設校なんかはありますか。

委員：私の前任校のとなりある八坂小学校と中学校は PTA を一緒にするというでした。学校は全く離れていますけれどもコミュニティスクールは一緒にして PTA も一緒にするというやり方をしていました。

部長：そういう例も調べていただいて、その良かった点と悪かった点も聞きながらまた考えてください。そんな情報は私どもも協力しますのであてにしながらやってみてください。他にありますか。

委員：保護者としての意見になります。いろいろ先生方がお忙しい中こういう企画とか貴重な時間とか使っていただいているんだなと改めて感じました。感謝しかないんですが、そういう企画をしていただくと先生方のご負担もかなり大きくなってしまいますので理想だけで先生方に投げるといのもなんなので PTA の立場としてもバックアップというのはもちろんしていきたいと思えますし、また教育委員さんとか村の方たちも先生方のご負担を軽減できるようにいろいろなバックアップをしていただきたいと思います。

部長：ありがとうございます。うるっとくるような話を頂きまして私もありがたいなという風に感じました。その他全体を通して何かありますか。それでは最後今日ご発言が絡まなかった方、全体をまとめてご意見がありましたらお願いいたします。

委員：先生方にはいろいろ考えていつも行動してもらっていて本当に大変だと思いますが、保護者の立場としましてとても心強いですし嬉しく思います。現段階ではこれ以上の要望はありません。

部長：ありがとうございました。教育委員でもあり保護者である立場からご発言を頂きましたありがとうございます。それでは最後に副部長にまとめて頂きたいと思えます。お願いいたします。

副部長：最後に高野会長がおっしゃられた筑北中学校との PTA の合同というのは子どもたちが 9 年間一緒なら親も同じですからそういう風になる方がいいのかなと思えました。今までは坂井小からも来ましたので、小学校が違う子が来れば親も違うというのはありましたけれども今回麻績村立になれば全部同じですのでそういう方向がいいのかなと思えます。

委員：一応坂井の皆さん、他校から来る方も含めて考えておりますので村立になるからといってそういう方々が除外されるとかということは

ありませんのでそこは念を押しておきたいと思います。

副部会長：ふるさと学習の中で中原校長先生からもおっしゃられた3年生が今までの授業の活動も踏まえて提案するというのは非常にいいことだなと思います。私も教育の現場じゃない所で仕事をしていましたけれども会社で見ますと、自分の意見を言えないとなかなか通用しないかなと思いますし、ロボットという形になっても人間としての自分の考えを伝えられるプレゼンといういい方もありますけれども、そういう中では小さいことであっても自分で学習してきたこと仕上げたことを発表できる学習は非常に良いかなと思います。偏差値教育なんか等もありますけれども偏差値教育だけでなく、少人数の学年であればその特色があるそういう子たちも活かせる、社会に出てその子たちが生きられるようにしていくことが出来るかなと思いますので、少人数のメリットというには活かしていただく形で私たちも出来る範囲のことでやらせていただきたいと思いますけれども、そういう中で入試も変わっていくようですねけれども子どもたちを育ててもらいたいなと思います。英語教育で信大の留学生が中学へ行って交流というのは非常にいいことだと思います。我々みんな英語教育受けてきたと思いますが、習うより慣れろで1年間机の上で学習するよりも1週間ぐらい外国へ行って日本語は全然使わない方がほんとは為になって、それは市川先生が常日頃おっしゃられますけれども村で全員留学させるぐらいの予算をくれればいいんですけれども、それは難しいにしても何らかの形で外国の方と小学校中学校のまだ英語が十分でない子たちも交流してやっていくといいんじゃないかと思います。

部会長：ありがとうございました。大事な所を押さえて頂きました。それでは次回の開催日程についてお願いいたします。

4. 次回開催日程

令和元年9月19日(木) 17時00分 ～

部会長：それでは、閉会をお願いします。

5. 閉会

教育次長：実際に今日資料を付けなかったというのは部会長ともお話した中でいろいろな中で活発な意見が出てそこからやっていることとか今日も学校の方からもいろいろ話が聞けました。自分が思っていたのは学力向上の部分でリーフレットがどのように認知されているのかとか、放課後学習とか学びの広場の部分がなかなか参加人数が少ないと考えていたら生徒の方からこんな教科もやってもらいたいというような声も上がっていたということで、こちらについても今までやってきた中で PDCA が少し不足していたのかなという部分があったと思います。そういう中で話を聞く中で初めて分かることも多いと思いますので次回以降もこういうような形で出来るだけ資料を見て下を向いてではなくて、会議の方を言葉の部分で行き来が多い会議になれば建設的かなと思います。長時間にわたりお疲れ様でございました。以上で、麻績村の教育方針に関する研究検討委員会第 15 回の保育園・学校部会を閉会いたします。

(閉会 19 : 02)